



Rally 三河湾 2026

Driver: TAKUMI IWAHORI
Team: 一六RACING

Co-driver: TAKAHIRO AIBARA
Car: GR YARIS

Date: 2026/2/27~3/1

全日本ラリー選手権の開幕戦「ラリー三河湾」に参加しました。

今回のラリーは、高速ステージから山間部のテクニカルな区間まで幅広い特徴を持つ大会で、非常に難易度の高いイベントでした。

開幕戦ということもあり、自分自身としても探りながらのスタートとなりましたが、今回のラリーでは多くの課題と収穫を得ることができました。

DAY1は特に、グラベル区間や高速ステージへの対応に苦戦しました。

ブレーキングが慎重になりすぎてしまい、本来維持できる速度まで落としてしまう場面が多く、トップ選手との差を大きく感じる内容となりました。特に2車線の高速区間では、自分の中でまだ限界を掴み切れておらず、安全マージンを取りすぎている印象があります。

また、過去の大会と同じコースだったこともあり、「コースを覚えている」という意識が強くなりすぎ、ペースノートへの集中が薄れてしまう場面もありました。ラリーではドライバーとコ・ドライバーの情報共有が非常に重要ですが、その基本の大切さを改めて実感するラリーにもなりました。

一方で、ステージを重ねるごとに少しずつ路面状況やグリップ感覚への理解が深まり、DAY1後半からDAY2にかけては、ブレーキングやコーナリングにも改善が見られました。

特に、大きなクラッシュやスピンなく最後まで走り切れたことは、今後につながる大きな収穫だったと思います。

DAY2では、ABSの不具合やサイドブレーキのトラブルなど、車両面での問題も発生しました。ABSが正常に作動しない状況では、タイヤロックを避けながらブレーキングする必要があり、非常に難しいコンディションでした。さらに、スタート時にはトラクション制御の影響で加速が鈍る場面もあり、簡単な状況ではありませんでした。

それでも、限られた時間の中で対応してくれたサービスクルーやエンジニアの支えのおかげで、最後まで走り切ることができました。改めて、ラリーはドライバー一人では戦えない競技だと強く感じています。



今回のラリーを通して、

高速域でのスピード感覚
ブレーキング精度
路面変化への対応力
ペースノートの精度と信頼

など、次戦へ向けた明確な課題が見えました。

その一方で、走行を重ねる中で確かな改善や手応えも感じることができました。
今回得た経験をしっかり整理し、次戦ではさらに精度の高い走りをお見せできるよう取り組んでいきます。

現地で応援してくださった皆さま、SNSなどを通じて応援してくださった皆さま、本当にありがとうございました。
そして、厳しいスケジュールの中で車両を支えてくれたチーム、サービスクルー、コ・ドライバーにも感謝しています。

次戦もチーム一丸となって挑戦していきます。

